# チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

| 自治体提示の地域課題名（注1） | No. | 自治体提示の地域課題名 | 自治体名 |
|---|---|---|---|
| | | 人口減少社会における若者層の社会参画を目指した新たな取り組み | 熊本県玉名市 |
| チームがつけたアイデア名（公開）（注 2） | たまてばこフェス～異能が集まり地域を元気にする～ | | |

（注1）地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。
（注 2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

## 1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

| | | |
|---|---|---|
| チーム名（公開） | 玉名未来づくり研究所第5期生 | |
| チーム属性（公開） | 1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択➡ | 2.学生 |
| チームメンバー数（公開） | 4 名 | |
| 代表者（公開） | 石橋正教 | |
| メンバー（公開） | 徳永 心結 | |

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（メンバー一覧ページを参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、ttps://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja および https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

| | |
|---|---|
| アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の〇を選択 ➡ | OK |

＜チームメンバー名簿：メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

**アイデアの説明は（1）アイデアの内容（活動）、（2）アイデアの理由（なぜなら）、（3）実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。**必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### （1） アイデアの内容（公開）

**アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。**

## 2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

**将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。**

**※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください**

＜解決したい課題のポイント＞
人口減少が進展する中、地域の活力を維持するためには、人々の繋がりを創る必要があるが、なかなか人々が集まり、何かしらを共創することがすくない。フェス（イベント）を通じて、やりたい人が集まり、何かしらを実現することによって、人の繋がりを作りだし、単なる主催者とお客様という役割を超えて、みんなが主体者になり地方創生を実現していく。

**※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。**
**（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。**

＜提案するアイデアの内容＞
（1）事業名：コレクティブイベント「たまてばこフェス」

（2）目的
人口減少が進展するなか地方都市の衰退が課題になっています。衰退の原因は、担い手の不足や経済の縮小によって「地域の魅力」や「生活の利便性」の低下によって更なる人口減少に陥るという負のスパイラルに陥ってしまうことにあるようです。こうした衰退を防ぐためには、人口減少によって引き起こされる「人々のつながり」を復活させることが重要です。実際、デジタル技術の進展で、他者とつながることは容易になりましたが、コロナ禍のときには、他者との協働を極力避けてきたように思います。
本フェスでは、フェスを開催するという共通の目標の元、高校生が持つ「想い」と「才能」を公共空間で実施することで高校生同士の新たな繋がりを生み出し。様々な人たち（例えば、才能の披露はできないけれど、フェスを応援したり、フォロワーとして参加したり）も含めて、新しいつながりを創ってことを可能にすることを目指して実施していきます。また場所を公園で実施することで、にぎやかな空間を作りだし、多くの人が集いやすい空間を創り出していきます。

（3）日時：10月下旬

（4）場所：玉名市内できれば蛇ヶ谷公園

（5）どのように
（a）運営側
●対象者
玉名市には高校5校、専門学校1校、大学1校あります。これらの学校には、本当に様々な学びと若者がいます。こうした若者が中心となりたまてばこフェスを実施します。
●運営への立候補
様々な才能がいますが、何かのきっかけがないと出会うこともありません。市では若者の地方創生事業「玉名未来づくり研究所」を実施しています。これは、高校生以上29歳以下で玉名市に想いがある人が参加し、玉名の未来のために何が必要なのかを自分たちで考え、考えたことを小さく実行することで、ブラッシュアップした案を市長へ提言する取組です。ここでは、様々な高校生や大学生との出会いがあります。ここに参加した高校生と一緒にやっていくことが考えられます。
もう一つとして、こうした様々な才能のある人や想いを持った人が、その実現を表明する機会があると面白いと考えました。そこで提案するのが、「異能忠敬」というアプリケーションです。日本地図を作り上げた伊能忠敬は、様々な才能のある人たちと、1つの大きなプロジェクトを成し遂げました。この異能忠敬は「自分はこのようなことができる」「地域のために何かにチャレンジしてみたい」「もっと自分の可能性をひろげるために仲間と出会いたい」という表明することができるアプリケーションです。

## 2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

●コレクティブな場「コレクティブ・ドラフト会議」
イベントを実施しようとすると、だれがどんな能力があって、その人がどんな性格なのかというのが重要になってきます。そこでオンラインの場でも可能ですが、実際に話し合って一つのものを創り出す「コレクティブ・ドラフト会議」を行います。自分たちの役割を認識し、どのように実施すればよいかを理解していきます。

(b)参加者側
「たまてばこフェス」は、運営側のメンバーがつながるだけではなく、参加者もつながるフェスです。
●出演者
「たまてばこフェス」の出演者は主に高校や大学の文化系部活動などを主な出演者として考えています。文化系部活の発表の機会は、校内のイベントが主で、部員の少ない部活であれば、さらに発表の機会が少なくなっているのが現状です。一方で文化系は、他の部活とのコラボレーションが比較的容易であると考えています。例えば、書道部の書道パフォーマンスの際に、太鼓部が後ろで演奏する。ダンス部の人が踊る中で、軽音楽部が演奏する等です。
また、いろんな人に部活動を体験しやすいのも特徴です。例えば、太鼓部は、太鼓のアウトリーチを行うことで、楽しみなどを伝えることができます。このように部活動で多くの人とつながりやすいというのが特徴です。
●一般入場者
一般で見に来てもらう方にも、この繋がりを創るに巻き込まれてもらいたいと考えています。出演者のところにも記したとおり、部活の体験などを通じて学校の魅力や高校生の頑張りを知ってもらいたいと考えています。特に、中学校の部活動の地域移行によって、文化系部活動が衰退していると聞きます。高校生と一緒に部活動をすることによって、こうした地域課題の解決に繋がると思われます。
また、高校生が作った品物などを購入したり、イベントのファンページをつくりフォローしたりすることで、このイベントがより充実としたものに変わっていくようにしたいと考えています。

(c)資金
　フェスを運営することで、ある程度の資金が必要となってきます。当日の音響や、会場の設営、楽器の運搬など。持続可能なフェスにしていくためには資金が必要となります。そのために、たとえば学校で勉強したお菓子づくりやパン作りなどで販売するなど利益を出していく必要があります。スポンサーなどを探していく予定です。
　さらに、フェスを開催する公園は、様々な問題があります。公園は、子育てとても重要な機能を有していると聞きます。ですが、遊歩道が壊れていたり、遊具がさび付いていたりします。こうしたものを改善するために私たちのフェスが役に立てればよいと考えています。よりよい空間を維持するためには、よりよいお金の循環を考えていくことも重要であると考えています。

## 2．アイデアの説明（公開）　　(2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

**※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。**
**※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。**

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。
※**裏付け**：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

**■若者が集まる街だが一度転出したら戻って来ない街**

人口減少は、日本にとって大変重要な課題です。玉名市も今後急激な人口減少が見込まれています。実際、2020年の年少人口は7960人であったのが2030年は6530人との推計があり、より深刻な状況になっていきます。今回対象である若者ですが、玉名市内には、高校5校、専門学校1校、大学1校あり、近隣自治体から若者が比較的集まりやすい状況です。実際、昼夜人口・夜間人口の年齢階級別構成割合（2020 年玉名市）、対象となる 15～19 歳の人口比率は夜間人口が 4.78%（3,078 人）であるのに対して、昼間人口では 5.96%（3,716 人）に上がっています。このように、若者が集まりやすいことは、地域の活力になっているかと思われます。

一方で、RESAS の年齢階級別純移動数の時系列分析では、15-19 歳→20-24 歳の移動数が毎回大きくマイナスを示しており、その傾向が 30 代まで続き、その後大きくプラスにならない状況となっています。つまり、一度転出した若者は、なかなか玉名市に戻ってこないことを示しています。

高校生は、就職進学を控えており、地域を知って、自身のキャリアにどのように地域と関わりを持つべきかを探る最後のタイミングであると考えます。

▲図1熊本県北学区の高校　募集定員と定員割れ

**■高校の定員割れ**

一方で玉名市内の高校の定員割れが深刻となっています。

図1は、熊本県教委の資料（県立高等学校あり方検討会地域意見交換説明資料：熊本県教育庁学校教育局高校教育課）ですが、本市がある旧荒玉学区では現在、全日制募集定員数 800 人のところ-237 人の定員割れとなっております。

さらに対象人口が減った 10 年後の推計は-140 人となっており。現在の募集定員から-10 クラス分（400 人分）が埋まらないとの推計となっています。また、図2の令和 6 年度県立高校全体の定員充足率（熊本県）は、熊本市内が 97.6%、熊本市外が 68.3%となっており、一定数が私立を含む熊本市内へ流出しています。実際、熊本市内へ通学している高校生は進学に際して「県立高校の授業はどこの高校も同じ。であれば、面白い同級生が沢山いるであろう市内の高校で楽しい高校生活を送った方が刺激的だ」という話をしていました。高校生自身にとって、人口減少が、自分の成長の妨げになるのではないかと考えています。

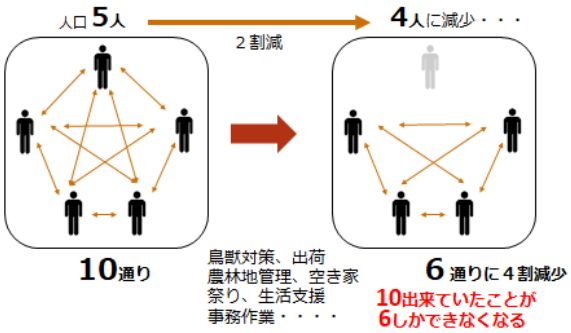
＜R６年度＞（5月1日時点）
県立高校全体の定員充足率　78.6%
**熊本市内：　97.6%**
**熊本市外：　68.3%**
県立全**50校中３９校 2,415人が定員割れ**
（H19：1,034人）
※一定数が私立を含む熊本市内へ流出

▲図2　県立高校全体の定員充足率

**■つながりの希薄化が地域での可能性を衰退させる**

私たちは「人々のつながり」が、地域を活性化させると考えています。図3のように、例えば人口 5 人の村があったとします。村人全員がそれぞれ他者とつながりを持ち、何かしらの作業を共に行ったり、手伝ったりしています。そうすると、5 人でも 10 通りの仕事が生まれ、人々の生活がまもります。しかし人口がなんらかの原因で一人減り、4 人になるとそのつながりが 6 通りとなっていましまいます。そうすると村が行っていた 4 割の仕事ができなくなります。

## 2．アイデアの説明（公開）　　(2) アイデアの理由（公開）




▲図3　人々の繋がりと仕事量

このできなくなった仕事が例えば地域の祭りであったり、生活支援や鳥獣害対策であったりする場合、急速に暮らしにくい地域となり、さらに人口が減っていく可能性があります。
このように人口減少（入学定員割れ）は、地域でやれたことがやれなくなる危険性があります。

**■高校生のつながり**

では、高校生の繋がりは一体どのようになっているのでしょうか。確かに SNS の普及によって、友達の様子を知ったり、連絡を取ったりすることは多くなりました。高校生生活が充実する、なくてはならない技術になっています。一方で、私たちが中学生の時のコロナ禍によって多く学校行事が中止に追い込まれました。クラス全員で何かを成し遂げることや、共通の思い出を作るといったことが少なかったように思えます。

私たちが考えている「つながり」とは「いろんな才能が集まり、想いを共有できる人たちとつながり、何かを一緒に考え、そしてそれを実行する」という流れです。これらの想いを共有できる「ともだち」こそ、高校生活を充実させる「つながり」になると考えています。

各学校行事を中止した学校の比率（%）令和2年度から令和3年度の変化

| | 令和2年度 小学校 | 令和3年度 小学校 | 令和2年度 中学校 | 令和3年度 中学校 | 変化 小学校 | 変化 中学校 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 音楽会ほか音楽系行事 | 74.9 | 55.0 | 47.0 | 31.0 | -19.9 | -16.0 |
| 芸術鑑賞会 | 67.1 | 43.2 | 73.2 | 50.1 | -23.9 | -23.1 |
| 職場見学・職場体験 | 61.9 | 45.5 | 78.4 | 59.4 | -16.3 | -19.0 |
| 学芸会・文化祭 | 54.4 | 32.9 | 30.8 | 13.3 | -21.5 | -17.5 |
| 集団宿泊活動 | 41.0 | 15.2 | 70.4 | 40.4 | -25.8 | -30.0 |
| 遠足 | 37.4 | 12.8 | 45.1 | 20.5 | -24.6 | -24.6 |
| 授業参観・学校公開 | 19.6 | 13.3 | 46.8 | 32.4 | -6.3 | -14.4 |
| 運動会ほか体育系行事 | 17.6 | 1.8 | 17.0 | 3.0 | -15.8 | -14.0 |
| 修学旅行 | 13.5 | 1.7 | 27.6 | 11.8 | -11.8 | -15.8 |
| 入学式 | 2.5 | 0.1 | 5.4 | 0.0 | -2.4 | -5.3 |
| 卒業式 | 0.1 | 0.1 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | -0.2 |

注：各学校行事や活動について、実施状況を次の選択肢で回答する形式：「計画通りの実施」「変更で実施」（「規模を縮小して実施」「行先や時期を変更して実施」「内容や方法を工夫して実施」）「中止した」。中止率は「中止した」と回答した学校の比率。

**■どのように機会を創っていくか　～地域との接点プラットフォームの必要性～**

実際、高校生活のなかで、地域を知ったり、気軽に自分のことを話せたりできる大人に出会うチャンスはほとんどありません。また地域でどんな日仕事があり、どんな思いで仕事をしているのかも知ることはありません。一方で、高校の中で自身の成長を示せるのは、授業か部活動ということになります。現在、「総合的な探求の時間」という科目で地域をテーマに学ぶ機会があるのですが学校の中だけと、実際に地域で活動するとでは、大きく違うような気がします。自分自身が地域の中で活動するチャンスがない限り、地域を知るチャンスはほとんどないに等しいと思います。

市が行っている玉名未来づくり研究所は、地域をフィールドとした研究事業として、アウトプットもしっかりでき、自身のポートフォリオも作れることでよい機会だと思います。

そこから学んだことは、玉名未来づくり研究所と同じような、地域との接点を創るプラットフォームが必要ということになります。それが今回提案する「たまてばこフェス」になります。

**■高校生が地域の活力になる**

本市の高校の魅力を高めるにためには、高校の授業などの魅力化も必要ですが、私たち高校生自身が、地域の中学生や小学生のあこがれの対象になることが「高校の魅力化」なることになります。そのためには熊本市内の高校に負けないほどの、面白い出会いと活動のチャンスがあることが大切だと思います。

そのためには私たち自身が「やらされ感」で活動しては意味がありません。そのために自分ができるほんの些細なことを大切にすべきです。

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

**※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます**

**＜以下のように分けて書いていきます＞**

**1．実現する主体**
**2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**
**3．実現にいたる時間軸を含むプロセス**

**1．実現する主体**

できれば、玉名市の玉名未来づくり研究所の1プロジェクトとして「たまてばこフェス」を実施してもらいたいと考えています。理由としては、フェスを実行する主体が高校生であるため年度ごとにメンバーチェンジしてしまう。同研究所の対象が「玉名に想いのある高校生以上 29 歳以下の若者」となっているため、本プロジェクトに共感できる人が多いという点です。

しかし募集は、玉名未来づくり研究所としても、実施はあくまで高校生であってほしいです。運営を任せていただくと、高校生の「やらなきゃ」という思いが、他の高校生たちと勝手につながり、実施できます。

**2．実現に必要な資源（ヒト,モノ,カネ）**

①ヒト

**運営側**：玉名未来づくり研究所の参加者で「たまてばこフェス」を実施したい「何かを挑戦したい」、「現状を変えたい」、「地域と関わりを持ちたい」と思っている人。
玉名未来づくり研究所は、単年度事業ですが、複数年（しかも 29 歳まで）参加することができるために、集まる場としてはとても良い場です。様々な能力を持った人が集うことで、お互いを補完しながら事業を実施していきます。
なお、玉名未来づくり研究所での実施が難しい場合は、任意団体を立ち上げて実施予定。

**発表参加側**：高校の文化系部活動、高校の魅力を伝えたいと思っている学生（運営側が兼ねることができる）。なお、高校などが直接発表に関わってしまうと、どうしても学校での学びを中心に発表や部活動の発表になってしまいます。すでに高校では、オープンハイスクールになど小中学生に自校の紹介する取組は行われており、このイベントでは高校生自身がやりたいことを実行することで、「かっこいい高校生」を披露する場になればと考えています。

**参加者側**：ターゲットを小中学生とその保護者にすることで、高校生のがんばりや高校の魅力を伝えらえられる仕組みにしたいと考えています。

②モノ

**場所**：

**・運営の場所**

高校生が集まりやすい場所がよいと思っています。市内には玉名未来づくり研究所で提案されたコワーキング施設があり、高校生が集まりやすい場になっています。この場を使わせてもらいたいと考えています。

**・開催場所**

試行イベントでは、高瀬蔵という NPO が管理する古い蔵をリノベーションした街中の文化施設を利用しました。しかし、こうした閉じた空間だと、多くの人の目に付きにくいという課題がありました。よって、だれでもがアクセスしやすく、参加しやすい場として公共空間が望ましいと考えています。

具体的には、公園といった誰でもが来やすい空間を使いフェスが実施できればよいかと思います。

**・参加のシステム（異能忠敬）**

未来づくり研究所に参加していなくても、才能ある若者が参加できるようなデーターベースシステム（SNS みたいなもの）を開発できればと考えています。
（試しにつくってみました　https://sites.google.com/view/inoutadataka）

③カネ
玉名未来づくり研究所の事業費は行政の事業費ですが。フェスを開催するとなると行政の費用では不都合な飲食代等の経費がかかってしまいます。それをなくすために、想いに共感してくれるスポンサーなどを募り、運営費に当てます。

**3．実現にいたる時間軸を含むプロセス**
玉名市が実施している玉名未来づくり研究所のプロセスは、4 月から 6 月まで研修員募集が行われ、7 月から 12 月まで7回にわたって事業が実施されます。

**▼R6 年度の玉名未来づくり研究所の流れ**

| 回数 | 月 | 内容 |
|---|---|---|
| 第1回 | 7月 | 対話：チームビルディング |
| 第2回 | 8月 | 街の実践者の声を聴く |
| 第3回 | 9月 | 実践活動のための企画づくり |
| 第4回 | 9月 | 実践活動への準備 |
| 第5回 | 10月 | 実践活動 |
| 第6回 | 11月 | 研究発表資料づくり |
| 第7回 | 12月 | 市長への報告会 |

※回数の合間をぬって、各チームで準備活動をしたり、打合せを行ったりしました。